

1. 実況上の着目点

- ① 500hPa 5760m付近のトラフが深まりながら北日本を通過中。これに対応する低気圧が日本海沿岸を南下。東北日本海側では低気圧に向かう下層暖湿気が強まり収束して雷を伴って非常に激しい雨。
- ② 南西諸島に中心をもつ高気圧がゆっくり南下。上層では、リッジに対応する高気圧が黄海、太平洋の亜熱帯高気圧が日本の南～小笠原近海。上層寒冷低気圧が東シナ海と日本の南にあり、それぞれ西進、北東進。これらの影響で南西諸島～西日本太平洋側は上空が冷たく、大気不安定の要因。沖縄地方で発雷を検知。
- ③ ②のリッジ対応の上層高気圧圏内の沈降や日中の気温上昇の影響で850hPa21～24℃の高温域が西日本から東海地方にかけて広がっている。

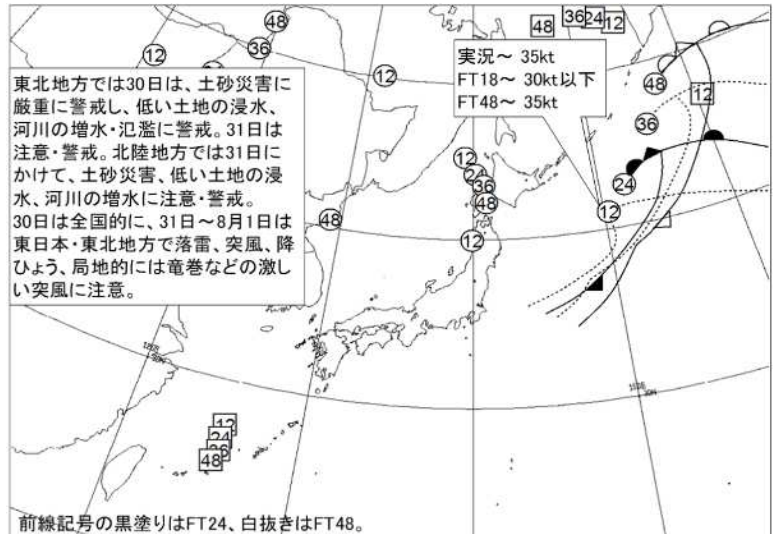
2. 主要じょう乱の予想根拠と防災事項を含む解説上の留意点

- ① 1項①の低気圧は30日、東北地方を南東進しながら不明瞭化。これと北海道の西を南下する低気圧との間の気圧の谷に向かって下層暖湿気が日本海から流入し、大気の状態が非常に不安定となり30日夜にかけて非常に激しい雨が降って大雨となる所がある。31日も気圧配置に大きな変化はないが、1項②のリッジに対応する上層高気圧の影響で比較的乾いた気流が日本海に入り、東北日本海側や北陸地方に流入する水蒸気量が減少傾向となり、激しい雨の可能性は次第に下がる。東北地方では30日は、土砂災害に厳重に警戒し、低い土地の浸水、河川の増水・氾濫に警戒。31日は注意・警戒。北陸地方では31日にかけて、土砂災害、低い土地の浸水、河川の増水に注意・警戒。8月1日には、500hPa 5760～5820mを進む正渦度極大域に対応する低気圧が日本海から東北地方に接近し、下層暖湿気の流入が再び強まって激しい雨が降る可能性があるが、下層が乾燥傾向や低気圧の発達程度等から予想は不確か。
- ② 1項②の上層高気圧圏内の目安の500hPa5880m以上の範囲は31日にかけて西日本、8月1日には東日本に拡大する。30日は1項②の大気不安定要因の影響が続き、①の要因による北・東日本と合わせて全国的に大気の状態が非常に不安定。31日から8月1日は、上層寒冷低気圧がそれぞれ南西諸島から離れて西日本にかけての上空が昇温するとともに、沈降による対流抑制が効くようになる。30日は全国的に、31日～8月1日は東日本・東北地方で落雷、突風、降ひょう、局地的には竜巻などの激しい突風に注意。
- ③ 8月1日にかけて1項③の下層高温域が徐々に拡大。下層風向が概ね北西であることから、西日本や東日本の太平洋側を中心に気温が上昇し、猛暑日となる範囲が拡大し、最高気温が40℃前後の極めて厳しい暑さとなる所もある。夜間を含めて熱中症などの健康管理に一層の注意が必要。

3. 数値予報資料解釈上の留意点 総観場はGSMを基本とする。量的予想や降水分布はMSMやLFMも参考。

4. 防災関連事項【量的予報等】 ① 雨量（06時からの24時間）：北陸120mm。② 波浪（明日まで）：高い所（3m以上）はない。

5. 全般気象解説情報発表の有無 全般気象解説情報（大雨・落雷・突風）を05時頃発表予定。



主要じょう乱解説図